



隊員の躍動を感じ、総合火力演習バックヤードを研修



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己 1等空佐）は8月17日（金）、陸上自衛隊東富士演習場畑岡地区（御殿場市）で陸上自衛隊富士学校（駿東郡小山町）が実施した「富士総合火力演習部隊研修」に参加者を引率した。これは、静岡県を含む5県から自衛官を目指す若者や各協力団体を対象に実施されたもので、県内からは40人、全体で180人が参加した。

参加者はまず、普通科教導連隊の宿営地において重迫撃砲中隊による陣地侵入から射撃準備までの一連の動作を見学。その後、戦車部隊宿営地に移動して、最新鋭の16式機動戦闘車などの射撃前整備やテント内に設けられた作戦会議所、隊員が訓練の間宿泊する宿営用テントや簡易浴場などを見学した。

その後、総合火力演習の会場において、29年度に新編された水陸機動団の機動展開や、島嶼部の奪回を想定した訓練を見学し、迫力ある射撃や隊員の躍動する姿を間近で体感した。

参加者からは「重迫撃砲中隊の女性自衛官がとても格好良く、その場で直接話を聞くことができると良い経験になった。私も早く自衛官として活躍できるように頑張りたい」といった感想を聞くことができた。

静岡地本は、実際現場で活躍している自衛官の姿を間近で見てもう一度見学会などを通して、自衛隊を目指す若者に対して活力を提供できるよう努めていく。

いざ自衛官の登竜門、航空教育隊へ



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己 1等空佐）は8月30日（木）、今年6・7月の「自衛官候補生採用試験」に合格し、8月に入隊する女性入隊予定者2人を、静岡から入隊先の教育隊がある航空自衛隊防府南基地（山口県防府市）まで引率した。

引率は袋井地域事務所長と藤枝地域事務所広報官が行い、約半日をかけて新幹線等乗り継いで山口県防府市へ移動。移動中、広報官が航空自衛隊の職種や自身の入隊時の体験談などを話すと、入隊予定者は終始落ち着いた様子で「航空機整備など体を動かす職種が事務系の職種かで迷っている」「全国から同期が集まるので、積極的に輪に入って3か月間を精一杯楽しみたい」などと話していた。

基地到着後、入隊予定者2人は教育隊の隊員の指導のもと必要な手続きを行い、翌日、自衛官として勤務するための宣誓を行って入隊した。

静岡地本は、今後も入隊者との連携を密にし、教育隊卒業後の部隊で活躍する隊員による募集広報活動を積極的に支援して、将来の自衛隊を担う若者の入隊に全力を尽くす。

小学生と保護者に自衛隊を紹介



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己 1等空佐）は、9月19日（水）、沼津市立片浜小学校において自衛隊に関する職業講話を実施した。

これは、同校から市を通して依頼があったものの。自衛隊と地元の企業2社の講師が、6年生73人とその保護者約40人にそれぞれの仕事の内容ややりがい、男女共同参画への取り組みなどについてわかりやすく説明した。

沼津地域事務所の広報官による自衛隊についての講話では、生徒から「自衛隊を選んだきっかけ」や「音楽隊の日頃の訓練内容」「今までの仕事で一番に残った出来事」など、多くの質問が寄せられた。会場は熱気で蒸し暑いにも関わらず、児童たちはそれぞれ説明に熱心にメモを取りながら聞き入り、自分たちの将来について真剣な眼差しで学んでいた。

静岡地本は引き続き、将来を担う小中学生に対して自衛隊の活動を積極的に広報し、自衛官を職業のひとつしてもらえよう、学校と連携して自衛隊の活動を正しくわかりやすく紹介する講話などを実施していく。